

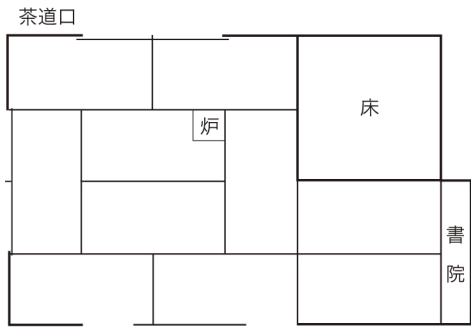
實性寺 表千家茶道の3月稽古

残月亭写し「聴松軒」での稽古

〈利休忌に因んだ稽古〉

聴松軒

[聴松軒広間]



[扁額]

【稽古の内容】

- 一、初炭
- 一、盆香合
- 一、お茶湯
- 一、茶カフキ
- 一、廻り花
- 一、花所望
- 一、後炭
- 一、続き薄茶
- 一、薄茶



【道具組】

- 〔掛物〕 而妙斎宗匠「力囲希」 応祥画
- 〔花入〕 伝来写唐銅
- 花 「菜の花」
- 〔釜〕 小阿弥陀堂 松孤軒宗匠「松風」の字
- 炉縁 真塗 黒
- 五徳 中爪
- 〔棚〕 紹鷗棚
- 〔水指〕 浅黄捻梅 京焼
- 〔香合〕 クワラ型「麻三斤」 京焼
- 炭斗 油竹
- 羽根 犬鷲
- 火箸 少庵型
- 灰器 備前
- 灰匙 少庵型



- 〔茶入〕 膳所尻張
- 仕服 綾華紋錦
- 〔茶碗〕 黒 吉向焼
- 替 三尊仏絵 京焼
- 奈良絵 赤膚焼
- 銘「静寂」 喝堂老師
- 黒中棗
- 〔茶器〕 信楽大脇差写
- 建水 染付墨台 徳泉
- 蓋置 溜塗鯨桶喰籠
- 〔菓子器〕 掻合わせ四方盆
- 〔干菓子器〕 とらや「臍饅頭」「春菊」「春雷」「八重霞」「嵐山」「古代」「薄紅」「二人静」
- 菓子 菓一
- 干菓子 一閑櫛形つぶ足
- 苺盆 香炉釉
- 火入 火入
- 茗入 ベトナム製
- 濃茶 「祥雲の昔」 柳桜園
- 「吉の森」 上林春松
- 「若松昔」 一保堂
- 薄茶 「珠の白」 柳桜園

【稽古の要点】

《お茶湯》

利休様そして三月十一日東日本大震災物故者へのお茶湯を致しました



《茶カフキ》

上林を「吉の森」竹田を「祥雲の昔」客を「若松昔」として使いました。異なる語を使っても、なかなか当てるのも難しいようです。加齢と共に味覚も変化しているかもしれないです。執事を手際良く記するのも又、難しいようです。五服の濃茶を同じように点てることも重要かと思われます。名のり札、折の廻すタイミングをよくよく考慮しなくてはなりません。



尚、4月の稽古は、炉の名残りでもあり、「廻り炭」「流し点」また、「風炉の灰おさえ」を中心とした稽古を予定しています。